

文京すずめ

<http://bunkyoshuwakai.sakura.ne.jp>

2026年(令和8年)

1月19日(月曜日)

第195号

発行:文京手話会

代表者:鈴木 節子

編集:広報担当



12月13日(土)

区民センター

クリスマス会開催

130人を超える参加者!

楽しい時間を過ごしました。



♪手話歌♪

まほうのことば



クイズ・デフリンピック↓



【設問4】

東京2025デフリンピック
開催国数はいくつでしたか?



しゃわしゃわデフリンピック



アンパンマン着せ替え競争

アンパンマン音頭



←カリスマックス

アーバンマンがいっぱい!



なんちゃって千手観音



実行委員さんのつぶやき…

*昼出し物は、会員にすべておまかせ!

初試みでしたが、短時間で衣装、動きなどが仕上がり、また当日の皆さんのが笑顔見て、大成功に終わった?

*ろう者も一緒に楽しめて、よかった

*昼・夜 出し物が多くて嬉しい悲鳴!

(昼・山崎)

ふれあいの集い

12/6（土）～8日（月）の期間にシビックセンターで開催された、ふれあいの集いに参加しました。手話会では50周年フェスタで作成したパネルを展示し、手話体験コーナーでは来場者と手話で楽しく交流しました。担当者同士で会う時間が持てず準備段階で難しい面もありましたが、サークルの皆様、ろう協の皆様に助けていただきながら、温かいイベントを作り上げる事ができたと思います。来場者の『楽しかった！』という笑顔には心がぽかぽかしました。皆様ありがとうございました。（昼・菅家）



手話に初めて触れる子どもたちや「昔ちょっと習っていたんだけどね」と懐かしそうに話してくださるご年配の方など、たくさんの方と手話を通して交流する事ができました。指文字スタンプやジェスチャーゲームをきっかけに、手話の世界に興味をもってくれる姿を見ることができ、とても温かい時間になりました。

（夜・加藤）



防災フェスタ



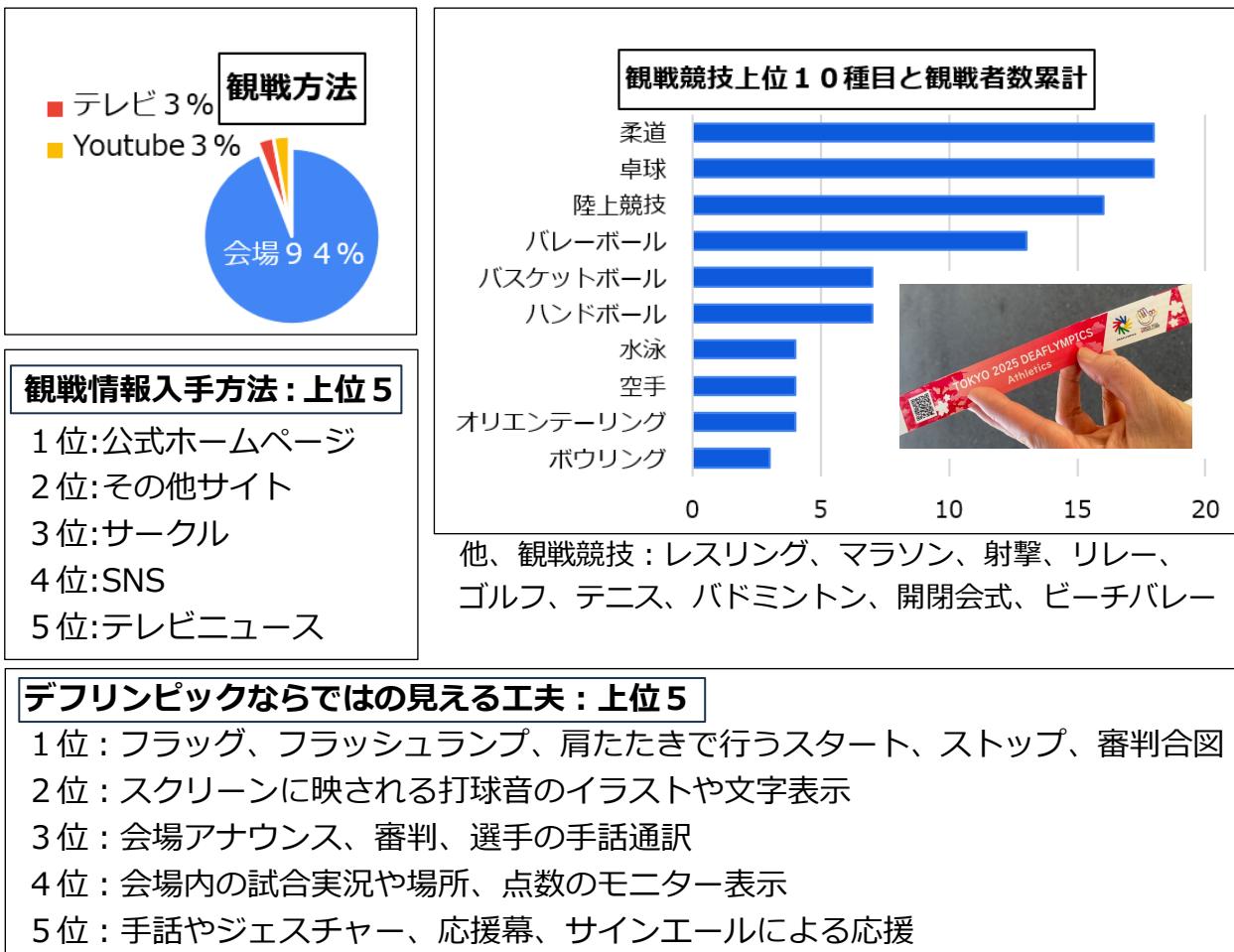
12/7(日)教育の森で防災フェスタが開催されました。手話会では、手話bingo、新聞紙スリッパ作り、指文字スタンプ名刺作り、さいころ de 手話を企画しました。ちょうど一年前の防災フェスタのブースで文京区に手話会があることを知り、手話会に入会しました。きっかけが防災フェスタであったことから防災班に入り、活動しています。イベント開催にあたり、班のみんなで相談しながら進めていく過程がわかりました。参加でき、一緒に準備を進められた事を嬉しく思います。（夜・宇野）



今回、初めて参加しました。こんなに大きなイベントとは思っていませんでした。来場者で『最近、聴力が落ちてきたので手話を習いたい』と話してくれる方がいました。私も同じ気持ちを抱いていたので、相談に乗るような気持ちで交流することができました。手話をやっていて良かったと思います。（昼・K）

デフリンピック観戦アンケート結果

様々な形で観戦した皆さんに、デフリンピックならではの工夫や感想を教えて頂きました。ご協力ありがとうございます！ 回答数：44名（昼28名、夜16名）



観戦の感想

～感動や考えさせられた事が伝わる熱いメッセージを沢山頂きました～

- ・選手がどれだけ練習を積んできたか、競技を見て感じられ感動した。（さりー）
- ・今大会の為に必要な準備が聴者大会でも出来ることが本当のゴールだと思う。（H.T）
- ・聞こえない人、聞こえない世界の理解がもっと深まる良いと感じる大会だった。（M）
- ・外国選手や関係者、応援のろう者と交流し、貴重な経験ができた。（豆大福）
- ・ろう者の為の見える工夫は、聴者にも便利な工夫が多いと思った。（みっちゃん）
- ・多くの観客の方が観戦に来られているのを見て驚きとともに感激した。（K.U）
- ・世界中の手話や外国語が飛び交い、聴者が少数派になる貴重な体験をした。（M.T）
- ・ろう者との意思疎通のとり方や、理解が深まるきっかけになったと感じた。（S.K）
- ・プレッシャーに負けず応援を力に活躍された選手に、感動のお礼を言いたい。（S.N）
- ・試合前に各国の手話での国歌斉唱が素晴らしい、感動した。（めえこ）
- ・手話を学んでいなければ、この素晴らしい機会に出会えなかつたと思う。（K.I）

デフリンピック・ボランティアへの道 完結編

11月15日から同26日まで12日間にわたって開催された東京2025デフリンピックで、日本選手団は51個のメダル（金：16個、銀：12個、銅：23個）を獲得しました。このページでは大会の運営を支えたボランティアの声をお届けします。

11月17日と18日に東大和市のボウリング会場で案内誘導係を担当しました。予想を超える観客のため入場規制を余儀なくされ、手話での説明や度重なるハプニングに奔走しました。慌ただしい2日間でしたが、多くの学びを得ました。

特に強く感じたのは情報保障の重要性です。さらに、どんな状況でもコミュニケーションを諦めない姿勢が心と心を結ぶ力となり、手話を通じて安心感と温かな絆が生まれることを実感しました。この経験は私にとってかけがえのない財産です。今後も手話の学びを深め、積極的にボランティアに参加していきたいと思います。（昼・E.K）



ランチパックの苺ジャムとクーラーパンが大人気だった補食

デフリンピックで陸上の練習サポートを担当しました。11月18～20日の3日間、大井ふ頭公園と駒沢公園で活動し、IDチェック、ゴミ分別、備品貸出や案内を行いました。補聴器を使って音声でコミュニケーションが取れる人が多いため、手話ではなく、海外選手には主に英語で対応しました。多くの人が大会を支えていることを知り、選手の熱心な姿にも感動しました。スポーツを支える楽しさを知り、今後もボランティアに関わりたいと思いました。（昼・前田）



期間中にオリンピック記念青少年総合センターのデフリンピックスクエアで2回ボランティア活動に入りました。1回目は選手にIDカードを交付する本部でのサポート業務、2回目は各ホテルや競技場に向かうバス乗り場でのサポート業務でしたが、どちらも谷間の日で選手は少なく、ボランティアが不要なほどヒマでした。それでも、ろう通訳や聴覚に障害のある他のボランティアと（そして、ろう協の酒井会長とも）雑談を通してナマの手話に触れることができたのは収穫でした。↗



【心のつぶやき】イベントスタッフとして集められた隙間バイトの大半は手話や外国語ができるわけでもなく（でも日当制）、だったら手話ボランティアをもっと当選させたら良かったのに、と密かに思いました。（夜・K.I）



3 日間、ビーチバレー会場で試合中のボール拾いや入場管理を担当しました。競技参加は約20カ国、しかも小さい会場で観戦者もそれほど多くありませんでした。でも、練習や試合中に選手が手話で会話する様子や、トーナメントが進むにつれて白熱する試合中の掛け声やサインエール等、国際試合を場内で目の当たりにした興奮が記憶に鮮明に残っています。試合の実況や場所の割り振りは各所でモニターに文字表示され、情報共有もスムーズでした。ボールを渡す時に選手と手話で短い会話を交わすことができ、とても貴重な体験ができました。（夜・S.I）

デ フリンピックのボランティアには落選しましたが、その後に応募したバレーボール競技役員として1日活動しました。試合前の練習ボール回収、試合後のベンチやロッカー清掃、ゴミ分別などを担当。男女2コートでそれぞれ4試合が行われ、試合終了が重なると大忙しでした。

試合中は迫力あるプレー や満員の観客席をコートの横で見ることができました。外国選手から国際手話で「Thank you」（=投げキスの仕草）と伝えられることや、通訳の方と手話で交流できたことが嬉しい思い出です。（夜・八木）



自 転車ロードレース競技に競技審判として参加しました。担当は、選手を出走時間にスタート地点に集めるコーラーと検車でした。選手やチームスタッフはルールを良く知っているので英語と手話、身振りを交えながらコミュニケーションを図って順調に競技を進められたのが良かったです。

今回はろう者の審判員が2人参加しており、それを知ったICS D自転車競技ディレクタのポール・ウッド氏が話をしに来られました。片耳難聴の私も仲間入りし、ろう者審判仲間と記念撮影。とても良い思い出になりました。（夜・河中）



VOL. 3

ただいま講習中！



手話講習会の講師の皆さまからのメッセージ。上級クラスはろう講師のお二人です。
昼クラスの高桐尊史さんと夜クラスの當 芳枝さんです。



みなさん、こんにちは。昼の上級クラスで講師を担当している高桐尊史です。
私は手話指導のほか、国際手話通訳の活動もしています。昨年のデフリンピック 2025
では、競技場での通訳や国際手話の配信を担当しました。アスリート以外にも海外のろ
う者を迎える、日本の魅力を伝えるサポートをしました。

文京区での講師は3年目になります。受講生の皆さんには日々頑張っていると思いま
すが、少し控えめな印象があります。もっと積極的になってくれればと期待していま
す。そして将来は、手話通訳を目指してほしいと思いながら指導しています。そのため
にも講習会では、出来るだけ声を出さずに、聞いて直ぐ表現できるように、また、技術
だけではなく、聴覚障害者への理解を深めるように育てたいという思いで取り組んで
います。

上級・夜クラスを担当している當です。文京区には大変お世話になっております。
約5年前、コロナ感染拡大の際に「zoomで指導できないか」という話がありました。
ちょうど地元でもさまざまな会議をzoomで行っていた頃だったので、「これまでにな
い新しい指導方法に挑戦してみよう」と思ったのが始まりでした。

現在は対面に戻りましたが、初級・中級向けに新しいテキストが導入され、上級もそ
の変化を目の当たりにしています。手話を中心に過ごしている自分でさえ、手話に関
する学習の必要性を強く感じています。

これまで自らは手話話者でありながら口話や読唇を学び、社会に適応できるよう努
力してきましたが、いま教える立場として手話表現が多様化する中で「聞こえる人に
どう説明すればよいのか」という戸惑いが続いています。この迷いはいつまでも続く
のでしょうか——言語を学び教えることの難しさや相互理解を模索する日々です。

大成功だったと言われる大阪万博

果たして耳の聞こえない人たちにとってはどうだったのか？

2025年に開催された大阪万博。来場者数 2558万人、230億円の黒字、関西での経済効果など、大成功だったと言われていますが、耳の聞こえない人は万博を心から楽しめたのでしょうか？

<ガイドライン上では方向性が明記されている>

2021年に、博覧会協会からユニバーサルデザインガイドラインが発表されました。その後、2022年に障がい当事者を含めた改訂作業が開始され、1800件もの意見が集まりました。その結果、聞こえない人たちのために手話通訳や字幕などが必要だと明記されたことは評価できる部分でしょう。

<当事者の声を聞いてみると>

万博を訪れた聞こえない友人の声を集めてみました。「日本館では字幕の出るタブレットを貸し出してくれた。しかし、字幕ばかり見ていると迫力ある映像が見られなくなってしまうため、結局字幕はときどき見るぐらいにした」。「日本語のアナウンスを音声認識アプリで文字に変換しようと試みたが、音楽など雑音が大きく文字変換は難しかった」。「場内には手話で対応しますというバッジを付けたボランティアがいると聞いたのだが、一度も出会うことがなかった」などの不満の声を数多く聞きました。

<ドイツ館とイギリス館の例>

ここで具体例を 2 つ挙げましょう。ひとつは私自身のドイツ館での体験です。ここでは入り口で各来場者にマスコットが渡され、自分の聴きたい言語を選択します。すると会場内の要所要所で音声による説明がそのマスコットの口から流れてくるという仕組みでした。しかし、耳の聞こえない私の妻にとっては全く意味がありません。つまり、来場者が自分の聞きたい言語を選べるというのはとても良いアイディアであったものの、その中には聞こえない人もいるという想定がなかったわけです。

もうひとつは友人のイギリス館での体験です。入れ替え制の一斎入館なので前のグループが入場した後の待ち時間に、自分は耳が聞こえないということをスタッフに伝えました。すると自分たちが入場した瞬間から、それまで流れていた音声が日本語から英語に、映し出されていた映像内の全ての文字が英語から日本語に変換されたそうです。スタッフの対応に感動したと話してくれました。

<大阪万博のテーマとは?>

せっかく素晴らしいガイドラインがあっても、その運用がパビリオン任せになっていては実効性が伴いません。イギリス館の成功例もたまたまスタッフ個人の素晴らしい判断で行われたことで、全体に共有されていたわけではないと思います。世の中には多様性のある人が共存しているという原点に立ち戻り、ひとりも取りこぼさない社会の実現をみんなが考えること。それこそが今回の大阪万博が掲げた「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマの一歩につながるのではないかでしょうか。(昼・谷)



お知らせ

◇ 文京手話会・文京区聴覚障害者協会 合同講演会

1月 24日(土) 10:00~12:00 区民センター3階

「デフリンピックの目指したもの。デファスリートの活躍(仮)」講師:橋本一郎氏

◇ 青年部企画 第10回 ミッションインポッシブル

2月 1日(日) 10:15集合 10:30開始

場所:日本オリンピックミュージアム

◇ 2月・3月の予定

日程		昼	夜
2月	2日	班活動	学習会
	9日	学習会	班活動
	16日	学習会	学習会
	21日	文京区登録手話通訳者認定試験	
	23日	休み(天皇誕生日)	
3月	2日	班活動	学習会
	9日	学習会	防災班企画
	16日	映像班企画	企画班企画
	23日	学習会	学習会
	30日	定例活動班企画一年振り返り	1年を振り返って



編集後記

今回のすずめは、手話会や文京区の様々なイベント、デフリンピック体験記など載せたい情報が盛りだくさんで、選んで編集するのが難しくもあり、楽しくもあり…という感じでした。デフリンピック観戦アンケートは40名以上の方に回答していただき、ありがとうございました。東京で行われた記念すべき大会を、皆が楽しんだようですね。

この大会をきっかけに、聞こえる、聞こえないにかかわらず、情報が保障され、皆が暮らしやすい社会になっていくといいですね。今年もよろしくお願いします。(夜・八木)